

九州大学大学院人間環境学府

多分野連携プログラム「人間諸科学における『進化心理学』の位置」

新学術領域「共感性の進化・神経基盤」共催

イヌの社会性 —ヒトとイヌとの絆形成—

永澤美保（自治医科大学）

2015/07/29

時間 17:30-19:00 会場 教育学部心理演習室

【来聴歓迎・予約不要】

今年4月、麻布大学・自治医科大学・東京医療学院大学の研究チームによる『ヒトとイヌの異種間における生理学的な絆形成はオキシトシンと視線を主としたアタッチメント行動とのポジティブ・ループによって促進される』という論文が米科学誌「サイエンス」に掲載され、表紙を飾りました。1万5千—3万年前から共に暮らしてきたヒトとイヌとの関係を、行動・生理の両側面から実証的に検討したこの研究の第一著者である永澤美保先生に講演していただき、イヌについてヒトについて、幅広く議論したいと思います。



<要旨>「イヌは最良の友である」という言葉は最早使い古された感がありますが、研究テーマとして捉えたとき極めて今日的な意義が浮かび上がって来ます。「その人のことは友を見ればわかる」というように、イヌの進化を紐解くことで、ヒトの成り立ちを理解するという新しい視点を提示したのが「ヒトとイヌの収斂進化」仮説です。一方、哺乳類の進化は、競争の原理のもとに行われてきたと同時に、群れのメンバーが弱者を守り、仲間の存在によってストレスを軽減させるような親和的な神経・行動システムも発達させてきました。厳しさを増す社会・経済状況の中、親和や寛容、そして共感のメカニズムの解明は喫緊の課題であるといえます。そのような意味でも、系統発生によらないヒトとイヌの関係構築を支えるイヌの社会性の解明は、私たちに大いなる示唆を与えるものと考えています。今回の講義では、イヌ社会性について、特にヒトとのかかわりに焦点を当ててお話ししたいと思います

お問い合わせ先: 橋彌和秀 (E-mail) hashiya@maindless.com 電話: 092-642-3143